

## 特定非営利活動法人自遊の広場 令和 6 年度事業報告書

### 1 事業の成果

令和 6 年度は、「うろのひびき」や「とべないタンチョウわたる」の上演等のような新しい文化活動や、都会からの若者を交えた「びんたぼ農園」など、法人に関わる人の拡がりを感じられた一年であった。

経営面では、小規模多機能居宅介護事業の介護報酬に依存していることには変わりはない。保険外事業・介護以外の事業、会員の裾野を拡げることについて端緒にある段階だといえよう。

今後はさらに、法人・事業体の担い手の世代交代を図り、藤野地域の特性に深く根ざした活動が展望される。

### 2 事業内容

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

##### ア) 小規模多機能型居宅介護の運営に係る事業

##### ○内容

年間を通じて 20 名の定員を維持できたことで経営が安定した。

小規模多機能型居宅介護の「通い」の活動としては、その日の天気や利用者の顔ぶれを見たり、話したりしながら決めている。包丁とぎ・歌・詩の朗読・料理・将棋・オセロ等、利用者それぞれに得意なことを活かす活動も行っている。部活動も継続しており、手仕事部では専門家の力も借り、より完成度の高い作品に仕上がっている。地域のクリエイターの協力を得て、その作品が「くらして」とすずかけの家のコラボブランド「て」として発展した。アロマ部では継続して利用者のアロマケアを行い、むくみや痛みの改善につながっている。利用者で白癬菌のある方がいないのは、その成果だと思われる。読書の好きな利用者と一緒に「文芸部」もできつつある。

仮面芝居劇団「うろのひびき」に来ていただき、利用者向けの公演やワークショップを行った。

地域のイベントやお祭り、行事にも積極的に参加し、地域に根ざした事業所づくりに務めた。(イベントの詳細は「イベント事業」参照)

他事業所との連携として、ゆずカフェ（認知症カフェ）や藤野地区福祉関係機関情報交換会、小規模多機能情報交換会などの会議に参加している。

民生委員の勉強会、ニュージーランドからの見学者、杏林大学の実習生受け入れ等、様々な方の訪問があった。

職員の情報共有として、LINE WORKS の活用も継続している。新しい情報がすぐに全員に伝わり共有に役立っている。職員会議は、コロナ以降リモートを導入し、子育て中の職員や遠方から職員が参加しやすくなったのは成果だった。リモートの良さも活かしながら対面の会議と併用して開催した。

BCP（業務継続計画）に基づき防災訓練を実施した。年度末に見直しを行った。消防法の改正により防火管理者を置き、防災計画を作成した。

神奈川福祉サービス振興会の利用者アンケートを実施し、やや辛口の評価であった。事業者にとって、あらためて緊張感を高めることができた。

○日時：通年

○場所：すずかけの家及び訪問家庭、外出先

○従事者：のべ 2,580 人

○受益対象者：のべ 7,510 人

○支出額：44,171,183 円

#### イ) 高齢者等シェアハウスの運営に係る事業

##### ○内容

入居者が 3 名になり、人間関係がより立体的になった。仕事に八王子に通っている方、すずかけの家に通っている方、他のデイサービスを利用している方、それぞれの生活を支援している。一人ひとりの個性も際立ち、もめごとあり、笑いありの共同生活が続いている。職員もそのたびに情報を共有しながら仕事に臨んでいる。

地域の行事や普段の散歩などで地域の方とも顔なじみになり、声をかけてくださるようになっていく。少しずつだが地域の住人として認知されてきている。

防災に関しては、地震に備えて、ガラス飛散防止フィルムを貼り、耐震ブレーカーの設置、備蓄食料・飲料水等の購入等を行った。また、地域の防災訓練に参加した。

入居者家族、藤野地域包括支援センター、自治会長、地域の民生委員に出席してもらい、運営懇談会を実施した。

○日時：通年

○場所：やまぼうしの家

○従事者：15 人

○受益対象者：3 人（期間中の入居者数）

○支出額：6,992,058 円

#### ウ) 農園、訪問庭づくりを主にしたフレイル事業

##### ○内容

農園づくりを通じて交流を生み出し、自然や植物との関わりを介護予防・フレイル対策につなげる活動を行っている。令和 6 年度は、職員の増員により活動内容を充実させ、広報活動を通じてコミュニティガーデンプロジェクトの正式な立ち上げに向けて取り組んだ。

##### 【特記事項】

びんたば農園奥の農地を利用している都内からの青年たちと繋がり、新たな共同活動が始まった。青年たちや農園の農園地主さん関係者、近隣の「のびるっ子保育園」関係者、地域の若手住民も加わり、「コミュニティガーデンプロジェクト」が立ち上がった。

##### ① コミュニティガーデン「びんたば農園」

・月 1 回の定例作業を継続した。新規参加者の増加もあり、継続的な関わりが維持されている。

・芋煮会などの交流イベントを実施し、多世代の参加があった。

・「のびるっ子保育園」の子どもたちが野菜やチューリップを植えに来園し、高齢者との交流が生まれた。

・散歩や農園作業への参加を通じて、すずかけの家利用者の活動範囲の拡大につながり、バリアフリー農園の課題も見つかった。

・ハーブ園や花壇づくりも実施し、畑だけではなく幅広い参加者の関わりがあった。

・菌ちゃん農法や不耕起栽培など、さまざまな農法に挑戦した。夏の猛暑にもかかわらず収穫量が増え、すずかけの家の食事での利用や販売も行った。

・広報は SNS やホームページやメーリングリストのネット発信だけでなく、イベントでのチラシ配布など地域への PR も行った。

・農園関係者や地域の人に呼びかけ、2 回の共同整備作業を行った。区画分けを行い、見通しの良い空間と散策しやすい小径を整備した。作業後は昼食を囲み、参加者間での交流が深まった。

9 月 29 日 レンガタイルの小径の延長、菜園区画の補修（通路整備とデザイン向上）

2 月 22 日 菜園の区画づくり、瓦の撤去移動、鹿避け糸張り（防獣対策）

## ②出張庭作業

すずかけの家利用者からの依頼に応じて、簡易な庭の整備・草花の手入れなどを行った。

## ③園芸ワークショップ

活動を広く認知してもらい交流の場を作る、土に触れる楽しみや園芸の知識を得てもらうなどの活動として寄せ植えのワークショップを行った。講師にはサポーター会員でもある近隣の園芸家に依頼した。

6 月 14 日 ハングングワークショップ（参加者：10 名）

11 月 29 日 寄せ植えワークショップ（参加者：8 名）

○日時：通年

○場所：訪問先及びコミュニティガーデン

○従事者：15 人

○受益対象者：70 人

○支出額：367,281 円

## エ) お楽しみ講座「じじばば自由大学」の運営

○内容：お年寄りから地域の歴史を学ぶ親子講座「藤野の昔のこと聞いてみよう」を開催した。当初講師として予定していた利用者の話だけでなく、当日通いで来ていたすずかけの家の利用者がみな自分の生まれ育った地域のことや戦争体験を話してくれ、利用者が体験してきた歴史について学びあうことができた。当日湧いたように沢山の親子が集まってくれたことも素晴らしい講座となった（参加者 32 人）。

このことは、テーマ・設定によっては利用者を主人公にする活動ができることの証である。法人全体として学ぶことができた。

○日時：8 月 23 日

○場所：すずかけの家

○従事者：10 人

○受益対象者：40 人

○支出額：1,030 円

## オ) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

### ◎イベント事業

以下の通り、主催イベントを開催し、地域イベントに参加した。

○内容（日時/場所）

地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、次の主催事業を開催した。

- ・落語会（6月23日/すずかけの家）
- ・味噌づくり会（3月7日/すずかけの家）

地域との交流を図り、団体の活動を広めるため、次の地域イベントに参加した。

- ・のびるっ子保育園夏祭り（7月26日）
- ・ぐるっとお散歩篠原展（10月13日/緑区牧野・篠原地区）
- ・牧野公民館まつり（10月20日/牧野公民館）
- ・いろとりどり展（11月9日~17日/藤野芸術の家）（地元アーティストと福祉施設・事業所との共催）
- ・福祉のつどい（11月16日~11月22日/藤野中央公民館）

すずかけの家を会場に、以下のイベントが開催された。

- ・しのばら一箱古本市（4月20日）

以下の研修で講師を務めた。

- ・藤野地区社会福祉協議会総会後の研修会「福祉で地域づくりをする NPO 法人」（宮内眞/5月17日/藤野総合事務所）

○従事者：60人

○受益対象者：400人

○支出額：174,253円

#### ◎サポーター会員制度の取り組み

2023年10月から募集を開始したサポーター会員制度は、2024年度に入り継続的な支援を得られる体制へと成長したといえる。安定した協力者の存在により、活動計画・実施の見通しが立てやすくなり、安心して事業を進めることができた。

##### ・広報活動

パンフレット、SNS、広報紙、ホームページなど、複数の媒体を活用した広報活動を継続的に実施した。これにより、NPO法人自遊の広場の認知が地域内外で徐々に高まり、すずかけの家以外の事業の周知にもつながった。

##### ・サポーター会員数（2024年度末、2025年3月31日現在）

おおきなプラタナス・サポーター：34名（うち継続加入者 30名）

ちいさな♥サポーター8名（うち継続加入者 7名）

##### ・プロジェクトチーム

会員主体の「コミュニティガーデンプロジェクト」が立ち上がり、会員が主体的に活動に参加する場となっている。

○日時：通年

○場所：相模原市内及びインターネットほか

○従事者：10人（職員・事務局5、理事監事5）

○受益対象者：不特定多数

○支出額：0円（管理費に含む）

## ◎中期計画の策定及び実施

### ○内容

組織強化を図るため、令和 4 年度に参加型組織評価をもとに策定した中期計画の骨子に基づき、中期計画を策定した。計画の 2 年後の目標に向けて活動を実施した。

#### <重点課題>

1. 運営資金不足→資金の調達
2. 役割の明確化→理事会と現場の乖離、決定権の所在が不明確という分析に基づき、理事会の任務の明確化及び事務局の設置、会員制度の充実等を通じて、法人組織の強化を図る。

#### <中期計画> (抜粋)

##### 1. 資金の調達

##### 活動の柱 (3 年後の指標)

- ①すずかけの家が居心地のよい空間になっている。
- ②寄附金が 100 万円集まっている。
- ③物販収入が 50 万円になる。
- ④ (すずかけの家の経営基盤の安定) 利用者 20 人 (1 年後の指標)
- ⑤ (やまぼうしの家の経営基盤の安定) 入居者 3 名 (1 年後の指標)

#### 2 年目の目標・活動・成果

##### ①

目標 古民家改修ができている。

活動 古民家改修のため専門家のアドバイスを受けた。椅子を購入した。

成果 古民家改修の見通しができた (床の張替え、ジャッキアップ、照明)。

##### ②

目標 寄附金が 50 万円集まっている。

活動 サポーター会員募集と合わせて寄附を呼びかけた (1 年目の活動の継続)

成果 寄附金 55,000 円

##### ③

目標 物販収入が 30 万円になる。

活動 専門家の協力を得て手仕事部の活動を行なった。

成果 物販収入 50,000 円 (作業代含む)

「くらしで」と「すずかけ」コラボのブランド「て」とその製品ができた。

##### ④ (すずかけの家)

###### 1

目標 広報戦略に沿って、広報活動ができている。

活動 会の魅力を発信した。(インスタグラムの立ち上げ、Facebook、イベント開催を通じて、等)

成果 広報チームが発足した。

###### 2

目標 常勤職員を増やせる体制になっている。

活動 相模原市小規模多機能連絡会を通じて、市の担当課職員との関係づくりをした。藤野情報交換会 (障がい・高齢者の事業所が参加) に参加した。

##### ⑤ (やまぼうしの家)

目標 1 年目の状態 (入居者が 3 人) が維持されている。

成果 入居者 3 人がキープできている。

## 2. 役割の明確化

活動の柱（3 年後の指標）

- ② 理事会が経営者として機能している。
- ② 会員が 150 人いる。
- ③ 各プロジェクトチームが活動している。

## 2 年目の目標・活動・成果

### ①

目標 新しい理事がいる。新しい理事による理事会が発足している。

活動 新しい理事を探した。

成果 新しい理事 2 名、新しいメンバーによる理事会が発足した。

### ②

目標 会員が 100 人いる。会員がプロジェクトチームに参加している。

活動 会員・寄付者向けに年次報告書を作成した。

会員にイベントの呼びかけをした（会員割引制度）。

様々な手段を通じて会の魅力を発信した。（インスタグラムを立ち上げた。  
Facebook、イベント、会報「自遊のひろば」）

成果 サポーター会員 おおきなプラタナス・サポーター 34 名（うち継続 30 名）、ちいさな♥サポーター 8 名（うち継続 7 名）（4 月 22 日現在）

### ③

目標 新しいプロジェクトチームが立ち上がっている。

活動 広報チーム、コミュニティガーデンチームを立ち上げ、活動した。

古民家再生プロジェクトの準備のための活動をした。

成果 2 つのプロジェクトチーム（広報、コミュニティガーデン）ができた。  
古民家再生プロジェクトの立ち上げ準備ができた。

○日時：通年

○場所：相模原市内及びインターネット

○従事者：35 人

○受益対象者：不特定多数

○支出額：0 円（管理費に含む）

## （2）その他の事業

なし